

製品名: Wnt1 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab00547**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% アジ化ナトリウムを含む PBS 液 (pH 7.3)。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:1000,IHC 1:50-1:100,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	Calculated MW: 41 kDa; Observed MW: 45 kDa

抗原情報

遺伝子名	WNT1
別名	WNT1; INT1; Proto-oncogene Wnt-1; Proto-oncogene Int-1 homolog
遺伝子 ID	7471
SwissProt ID	P04628
免疫原	抗血清はヒト WNT1 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 301-350

背景

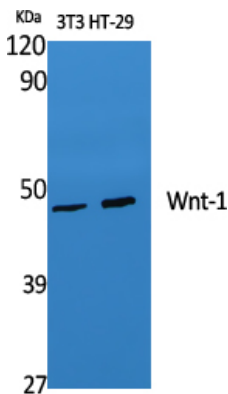
WNT1: wingless 型 MMTV 統合部位ファミリー、メンバー 1。WNT 遺伝子ファミリーは、分泌シグナル伝達タンパク質をコードする構造的に関連した遺伝子で構成されています。これらのタンパク質は、腫瘍形成や、胚発生中の細胞運命とパターン形成の調節を

含むいくつかの発生プロセスに関係しています。この遺伝子は WNT 遺伝子ファミリーのメンバーです。進化において非常に保存されており、この遺伝子によってコードされるタンパク質は、マウス Wnt1 タンパク質とアミノ酸レベルで 98% 同一であることが知られています。マウスの研究では、Wnt1 タンパク質が中脳と小脳の誘導に機能することが示されている。この遺伝子は当初、小脳低形成を主症状とする常染色体劣性疾患であるジュベール症候群の候補遺伝子と考えられていました。しかし、その後の研究で、遺伝子変異はジュベール症候群において重要な役割を果たしていない可能性があることが示唆されました。この遺伝子は、染色体 12q13 領域で別のファミリーメンバーである WNT10B とクラスター化しています。

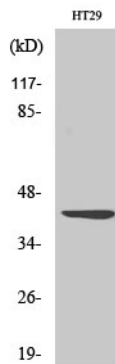
研究分野

幹細胞

画像データ



Wnt1 抗体を使用したさまざまな溶解物中の Wnt1 のウエスタン プロット分析。



Wnt1 抗体を使用した HT-29 溶解物中の Wnt1 のウエスタン プロット分析。